



【 県南ブロック研修会に参加して 】

2月牛久市中央生涯学習センターで、日本福祉大学教授・精神保健福祉士の青木聖久先生から、「家族会だからできること・家族会にしかできないこと～精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(通称 にも包括)等の政策を踏まえて～」と題して講演いただき、県南・県西の家族会、精神障害に関心がある行政等の参加者も交え、具体的事例を挙げながら、分かりやすく和やかな雰囲気の中で学びました。

当事者の対になる言葉は第3者。家族も当事者といえること、辛く苦しい偏見にもさらされ、生きる先に「生きていて良かった」体験もあったりと、「私たちが通った道」はそれが強味になり日々の生活問題に向き合い分かち合えるチカラにもなるとの指摘には励まされました。

「にも包括」を推進する事業は、対象が保健所設置市、政令市、都道府県で、基本的に保健所設置市以外の市町村には直接の助成が無い事、事業の例には保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置、普及啓発に係る事業、精神障害者の家族支援に係る事業などがあり、2023年度以降は当事者・家族等の活動支援及びピアサポートの活用に係る事業などが加わったものの、全国的にも家族・家族会が協議の場に参画する例は少ないようです。

家族として自分及び本人(当事者)を大切にしたかわり(自らの人生を楽しむ、世界で一番の味方、開放的なかわり(お金を残すよりも社会とのつながりを残す))を目指すにあたり、病院・保健所・民生児童委員ほか第1線で当事者に接する社会資源・スタッフなど地域の強みに目を向け、足りないと思われることにも気づくことで課題を提示でき、メンタルヘルスの課題により適切に対応できる地域づくりに役立つことが大事と認識させられました。(竹之内)

【 自立への第一歩が始まった 】

3月の定例会に久し振りに参加し、子供と親が自分のリカバリー体験を短いストーリーにして発表するDVDを鑑賞した。リカバリーを遂げ、今や立派な社会人となって活躍する発表者の姿が私には羨ましく見えた。自分の息子は、先月初めてグループホームに入所し、自立への第一歩を踏み出したばかりである、あのような日が来るだろうか。ついそんな思いにふけた。

息子は高校1年、16歳の時に発病し、担当医から統合失調症の名を告げられた。以来30年以上、幻聴・妄想に責められ、苦しめられ、社会経験を一度も体験出来ずに入退院を繰り返してきた。この時期の苦しいストーリーはとても短時間では語れない。最後に入院した「M病院」での10年間は比較的問題がなく、親は平穏な生活をさせてもらい、心の片隅に感謝の気持ちすらあった。しかし、そんな時に「M病院」の相談員と開業して間もない「イマココ」のOさんから、そろそろ社会復帰に向けて退院を考えてはとの打診があった。(次頁に続く)

これまでの主な活動(1-3月)

月 日	項 目	場 所
1月3日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
1月13日	県南かれん	総合福祉センター
1月18日	新年会	市民活動センター
1月25日	役員会	市民活動センター
2月1日	定例会	市民活動センター
2月5日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
2月15日	婦人茶話会	総合福祉センター
2月15-16日	りゅうがさき市民活動フェア	サプラスクエア
2月22日	役員会	市民活動センター
2月24日	県南ブロック研修会	牛久市中央生涯学習センター
2月26日	ボランティア連絡協議会研修会	(社福)福祉楽団ほか(千葉)
2月24日	県南ブロック研修会	牛久市中央生涯学習センター
3月1日	定例会	市民活動センター
3月3日	ボランティア連絡協議会総会	地域福祉会館
3月5日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
3月10日	県南かれん	総合福祉センター
3月13日	県連理事会	総合福祉センター
3月15日	婦人茶話会	総合福祉センター
3月22日	ゆっこら評議員会	ゆうあいワークイン
3月22日	役員会	市民活動センター



(続き)「M病院」のすぐ近くにある生活訓練施設「Y施設」を勧められたが、過去の失敗が頭をよぎり、あまり迷惑を掛けては申し訳ないと入所を躊躇した。ところが担当職員から「ご両親はもう十分苦労されました。これからは私たちに任せてください」と言葉を返され、これには心の底から嬉しく思った。

はからずも、「Y施設」での生活訓練が始まったが、2、3回入退院の繰り返しはあったものの、職員皆さんの力添えで無事2年間の訓練を終え、退所の時期が近づいた。同時に退所後の生活をどうするか、いよいよ真剣に考えざるを得ない問題に直面した。親は高齢を理由に、退所後は自宅に戻らず、親の助けに頼らず、自分の力で生きるように機会あるごとに言い含めてきた。その気持ちが通じていたのか、「Y施設」の意向調査では、グループホームを希望していたようだ。しかし、果たして希望に沿うグループホームがあるのか、今度はそれが心配になった。

ところが、昨年12月、突然「Y施設」の担当職員から「息子さんの希望に一番近いグループホームが見つかりました。」との連絡があった。令和3年にオープンした「S事業所」の運営するグループホームで、事業内容の説明を受けた。しかし、今まで聞いたことのない名称で判断が付きかねたが、年末の12月27日に親の現地見学を予定してもらえた。周辺的环境やサービス内容、そして息子の希望する図書館が近くにある等を勘案し、2月1日入居を目途にお世話になることを決断した。

入居までの1か月は、行政との折衝や生活用品の準備購入などで「Y施設」の担当職員は大忙しのはずであったが、親は何も手伝えることがなかった。契約当日には蒲団や家具などの生活用品が見事に部屋に整っていた。手際良さには驚きと感謝の気持ちでいっぱいだった。

かくして、息子の人生初のグループホーム生活が始まった。嬉しいことに違いはないが、しかし自立への第一歩を踏み出したに過ぎない。今後いろんな困難に必ず出会うであろうが、(今年のエトの如く)紆余曲折・蛇行しながらもリカバリーを目指して進んでほしいと思う。

そして、親にとっても急な展開は驚きであったが、振り返って見ると、どの局面にも家族会との大きな繋がりがあった。私も家族会に入会して20年、いろんな方に励まされ勉強もしてきたが、今回のDVD鑑賞は家族会のありがたさを改めて思い起こし、刺激を受けた勉強会であった。(K・M)

【 沖縄のゆうこさん 】

息子が沖縄の大学に入学することになり、入学式に参加するため私も息子のアパートに泊まり、式後の親向けの説明会に参加したときのことだ。

教授が「今年はいばらぎ県からの入学者が1人います」と言ったとき、親達がざわついた。「いばらぎって東北？」と聞かされた気がする。自己紹介することになり、「関東のいばらき県から来ました斎藤です」と言うと、「斎藤だって！！」と驚かれる。沖縄では珍しいらしい。こちらでは病院などで同時に2人立つこともあるので新鮮な気持ちになった。「息子は体が丈夫ではないので心配です、よろしくお願いします」と付け加えた。

説明会の後帰る支度をしていると、保護者が何人かやってきて、周辺の紹介や息子さん達の話をしてくれた。びっくりしてお礼を言っていると、近くでこちらを見ていた琉球美人がやってきて、「斎藤さん？アパートはどこ？お時間ある？」と言われるがままお茶をご馳走になり、アパートに送ってもらい、翌日も連絡が来て、周辺を案内するからと、同じ工学部に入る息子さんを連れて現れて、私と息子をイオンモールライカム(RyCom)に連れて行き、沖縄そばを食べさせ、いくら言ってもお金を払わせず、翌日息子が大学に行っている間、必要な買い物をするなら車を出してくれると言う。足りない物を買うのにスマホで店を検索したら、3番目に台湾の店が紹介されたので、彼女の親切は嬉しかったが、初めて会った人にこんなにされるのは初めてで、今日こそは絶対に悪魔を封印する壺を紹介されると警戒していたら、本当に、ただひたすら親切な方であった。

私が茨城に帰ってからも息子にご飯を食べさせてくれたり、病院に連れて行き食べ物を持っていく。いくらお礼をしても倍返しでマンゴーがやってくるので、ひたすら感謝しお礼を伝えた。今も「なんくるないさー」と応援してくれている。ありがとう！！(Y・S)

これからの予定(4月-)

月 日	項 目	場 所
4月2日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
4月12日	婦人茶話会	総合福祉センター
4月19日	役員会	市民活動センター
4月26日	家族会総会	市民活動センター
5月7日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
5月10日	定例会	市民活動センター
5月12日	県南かれん	総合福祉センター
5月17日	婦人茶話会	総合福祉センター
5月31日	役員会	市民活動センター

【編集後記】

昨年花農場で生まれ育ち、拙宅の庭で成長したパンジー・ビオラが色とりどりに咲き乱れています。

入園・入学を待ちわびる親子を見るとほっとします。

家族会も、ほっとする場でありたいと思っています。

皆様からの投稿、お待ちしております。

(K・T)